

海部地域の農業情報(令和7年8月)

掲載日:2025年9月4日更新

各作目において高温対策の取組が進む

近年の異常気象による高温は、農作物の生育に大きく影響し、品質の低下や収量減を招いている。

農業改良普及課では、高温対策への技術支援を普及活動における重要課題の一つとして取り組んでいる。

水耕葉菜(サンチュ、ミツバ)に対しては、5月に開催された愛西市八開地区の栽培研修会で生産農家に高温対策を説明した。

周年で栽培されている水耕葉菜は、近年、夏季の高温による葉の焼けなどの障害が発生し、高温対策が必須となりつつある。

昨年度、JAと協力して業者委託によって遮光剤を塗布し、高温による作業負担や葉焼けなどの障害を改善できたが、日射量が減ってくる9月には遮光によって作物が徒長するなどの課題もあった。そのため、今年度は適切な遮光期間の検討を進めており、農業改良普及課はその実施を支援していく。

イチゴに対しては、春先の高温対策として遮光剤の塗布が有効とされているが、イチゴ生産農家では収穫作業等に追われ、塗布の時間確保が難しかった。

そこで、JAと農業改良普及課が協力して業者委託による遮光剤の塗布を複数の農家で試みた。結果は良好で、施設内の日射量は約30%減少し、気温も約3℃低下し、イチゴの果実硬度改善・過熱も抑えられる傾向が確認でき、作業環境の改善にもつながった。

この結果を6月にイチゴ生産組合で情報共有した。

なお、この遮光の効果は約1か月と限定的であったため、今後は、遮光期間の延長・それに伴う収穫期間の延長も検討を行う予定である。



委託業者による遮光剤塗布の様子

花きでは、クルクマ生産農家に対して、愛知県農業総合試験場職員及び市場関係者を交えてほ場巡回を行い、高温対策についての意見交換を行った。

昨年度は夏季高温により苞(ほう)や葉の焼け症状が発生したことから、生産農家によっては遮光時間の延長や施設外側の遮光資材を遮熱資材に変更する等の対応をしており、効果について活発な議論となった。農業試験場の研究成果にも関心が高く、農家が試験場を訪問することとなった。



ほ場巡回の様子

これらの高温対策に対する技術支援に加え、地域の生産農家が集まる研修会などで農業改良普及課から熱中症予防対策の徹底について呼びかけた。

農業改良普及課は、引き続き各作目に即した高温対策を支援と熱中症対策の徹底を啓発する。